



## ゆく年くる年 一年の計は元旦にあり



寅年も間もなく終わり、新しい年（兔年）を迎えようとしています。時の流れの速さをひしひしと感じている生徒諸君も多いのではないかと思います。4月からの自分の生活を振り返ってください。「うまくいったこと」「うまくいかなかったこと」多々あったかと思われま。大切なことは、それらの**結果の受け止め方**です。無意味な結果などはあるはずがなく、どんな結果であろうともそこに存在する意味や意義に気づくことが肝要です。成長とは**ちよとした気づき**がもたらすものなのです。長期休業中に1年を振り返り、新しい年を新鮮な気持ちで迎えてください。

「一年の計は元旦にあり」とよく言われますが、以下の漢文が由来と言われています。

一日之計在晨（一日の計は晨《あした》にあり）

一日之計在春（一日の計は春にあり）

一生之計在勤（一生の計は勤にあり）

一家之計在身（一家の計は身にあり）

〈引用：「月令広義」歳令『四計』〉

大意は「充実した一日にするには朝が重要、充実した一年にするには春が重要、充実した一生には勤勉が、充実した一家には健康な体が重要」といったところです。

一年の抱負を紙に書くなどして気持ちを新たにし、お互いに一回り成長した姿で1月6日（金）に再開しましょう。よいお年を迎えてください。

## 「あいさつ」と「話の聞き方」

一般企業の人事担当者や様々な社会貢献団体の代表者と話す機会があるのですが、一様に口にするのが「**あいさつできない若者が増えている**」、「**話を正面を向いて聞くことができない**」の二つです。「あいさつ」と「話の聞き方」を大切にしているのは海外も同じで、アメリカあたりではこれが原因で激しい口論になることも珍しくありません。ポテンシャルに満ち溢れている22期生諸君、**あいさつを気持ちよくしていますか。敬意を払いながら他人の話を聞いていますか。**次世代リーダー達よ、「あいさつ上手」「聞き上手」であれ。

		1月	
日	曜	行事予定	
1	日	※	元日
2	月	※	
3	火	※	
4	水		校内共通プレ(3年)
5	木		校内共通プレ(3年)
6	金	?	全校集会 実力テスト(1・2年 国数英)
7	土		
8	日		
9	月	※	「成人の日」
10	火		実力テスト(2年 理社)
11	水		
12	木	40	職員会議①
13	金		進研模試(2年)
14	土		大学入試共通テスト 進研模試(1,2年)
15	日		大学入試共通テスト
16	月		
17	火		
18	水		
19	木		
20	金		第3回英語検定(本校)
21	土		
22	日		
23	月		
24	火		
25	水		
26	木	40	全統高2マーク模試(2年)
27	金		全統高2マーク模試(2年)
28	土		全統模試(1年)
29	日		
30	月		
31	火		自宅学習前特別指導(3年)

## 保護者講話開催（職業観の育成）

11月9日（水）、お忙しい中にも関わらず、吉田雅彦様、長谷川智彦様、小財くみ子様、3名の保護者の方々にお出でいただき、「職業に関すること」「22期生に望むこと」など職業観に育成に関わる内容を熱くかつ丁寧にお話いただきました。生徒たちの職業観の育成にあたり、「親の職業と教職しか知らない生徒は育成したくない」という考えの下に開催した企画でしたが、素晴らしい講話をいただいたことに心より感謝いたします。

**吉田雅彦様**は、高校時代のご自分の失敗談を加味されながら、職業人として親として、高みを目指す大切さや親に相談する意義などを話していただきました。

**長谷川智彦様**は、現在の仕事を選んだ理由、やりがいや大変さなどを話していただきました。竹の節目を人生の節目に例えながら話をまとめていただきました。

**小財くみ子様**は、様々な職業を経験されている中から、好きなことをやるのが人の喜びになっている楽しさや自分の存在（命）を大切にすることを話していただきました。



## ざ れ ご と



12月のある夕暮れ、体育館脇の自動販売機ゴミ箱から、ゴミ袋いっぱいのペットボトルを運ぶ1年生の生徒がいた。「どうしたのか」と尋ねると、以前から奉仕の精神の具現化として主体的に実践しているとのことだった。こういう姿が「主体的な怒」であると嬉しくなった。校内の掲示物が剥がれているのに気づいたら留めるようにしているのだが、自分が気づく前に何人の人がここを通行したのだろうと思うことがある。学級、学年、学校、部活等のどんな集団であろうとも、集団をよくするのは所属する人間において他にない考える。逆もまた真なりで、集団を悪くするのも所属する人間において他にないのである。ここで紹介したような生徒が至る所に見られる安積黎明高校22期生に成長してほしいものと心から思う。

大学の教授陣、木村達哉氏、山口和士氏らの講話をとおして、「学ぶ意義」を繰り返し伝えてきた。それぞれの主張をまとめてみると「**学びは自分の財産となる**」「**学びは他人を幸せにできる**」「**学びは誰にでも成立する**」「**だれでも学力を伸ばせる**」「**学びは生涯賃金にも大きな差をもたらす**」などである。既に気づいたメンバーは、タイムマネジメントをしっかりと行いながら学習をしている。残念なのは、まだ学びの意義に気づくことができず、日々漫然と生活しているメンバーがいることだ。早く自己の存在価値に気づき、高い意識で生活してほしいと思う。「鉄は熱いうちに打て」